

教育システム情報学会

Japanese Society for Information and Systems in Education

JSiSE

発行日 2005年 1月31日
発行所 教育システム情報学会
発行者 岡本敏雄
〒661-8520 尼崎市南塚口町7-29-1
園田学園女子大学情報教育センター内
TEL 06-4961-6507 FAX 06-4961-6508
<http://www.jsise.org/>
E-mail: secretariat@jsise.org

ニュース・レター No.133



教育（学校）情報化の落とし穴

教育システム情報学会会長 / 岡本 敏雄

本学会もお蔭様で、着々と学術的かつ社会的貢献が眼に見える形で成されていることに喜びを感じ、そして全ての学会員の方々に深く感謝いたします。目標としている会員数が1500人に届くところまで来ています。質と量の拡充にあり一層のご支援をお願いいたします。また国際化に向けての活動も活発に行われつつあります。今年、本学会が設立30周年になります。

そこで、次のような年間企画を計画しております。名づけて、“Viva JSiSE - 2005”です。

ISO-SC36 国際オープンフォーラム 3月初旬

UNESCO ITと職業教育 3月中旬

第2回日独ジョイント・ワークショップ 9月

情報通信技術とe-Pedagogy フォーラム

IT教育活用アワード（金沢学院大学全国大会にて、発表・表彰）

日本・バルティック国ジョイント・カンファレンス 5月または6月 リトアニア・ビリニウス

JSiSE 功績・功労賞（全国大会にて）

その他

30周年に向かって、本学会の知名度、質・量をより一層高め、会員の方々自らの学会としての帰属意識を高揚して頂ければと思います。

さて、教育（学校）の情報化ということについて、私の考え方を少し述べさせて頂きたいと思います。何時の時代にも、新しい技術は、新しい文化を創造する力になります。しかしながら、常に伝統的な（従来の）“あり方”、“やり方”との戦いがあります。特に精神的営み、人間の心を扱う対象において、近代的なものと同近代的なものとの相克が生じるわけです。合理主義的、形式的、数量的な視点で、前近代的（土着的）な人間のメンタリティを変容させることは大変困難ですし、またそれが健全であるとも思えません。そこには必然性が求められます。その必然性も“生き様のベースをなす精神”に訴えるものでなければなりません。ある場合には強制的な必然性も必要かもしれませんが、教育の場合は自律的な必然性が極めて重要です。組織、コミュニティ、社会において、それぞれ文化があり、その文化を生かした“自律的な必然性”を感じ取る技術の適用のあり方が、極めて重要なのだらうと思います。学校のネットワーク化、様々な情報メディア、最近のe-Learningの利用も同様です。

インスタントカメラ、デジタルカメラ、携帯電話、インターネット、そしてワイアレスといった技術の普及は、高い利便性と低コストにあります。そこでこれらを教育の中で有効に活用していこうという発想は極めて自然ですが、従来の教育制度や仕組み、すなわち文化にはまだまだ馴染まない部分もたくさんあります。こと学校においてより強く“近代的な価値”や“形式的な必然性”に対する抵抗があるのではないかと思うわけです。逆に“非近代的な価値”、伝統的な生き様の価値の問題があり、それらを十分考慮した、“自律的な必然性”の醸成がポイントのように思うわけです。

我々が長年、教育や学習に関わる情報通信技術の応用、システム開発研究などが、学校の文化に根ざしたもので（教育者、学習者に対する自律的な必然性の認識）あったかという反省もさせられるわけです。同時に教育界の甘えと責任感の欠如、特に近代的な（合理的な）考え方の拒否もあったようにも思います。一度、情報技術の導入に関する時代精神、場所精神に関わる深い議論をパネル討論でやっていただければと思う次第です。

最後に、全ての会員の皆様にとって良い年であることを願います。

「ICT を利用した優秀教育実践コンテスト」

入選取組発表会(2次審査会)No.1

2005年3月19日 於 大阪経済大学



プログラム

- 10:00-10:10 学会長挨拶
- 10:10-10:30 1:『eまなびィ』を活用した教員間の教育共有・創造システム
黒田恭史(佛教大学), 富永直也(京都府八幡市教育研究所), 岡村淳史(京都府八幡市立中央小学校)
- 10:30-10:50 2: 保育者と保護者をつなぐ「i-アルバム」の開発と実践
松河秀哉(大阪大学),
- 10:50-11:10 3: 1万人の既習者を生み出した「そのだインターネットキャンパス」の取り組み
堀田博史, 山本 恒, 植村忠邦, 垣東弘一, 小田桐良一, 宇治典貞, 吉崎弘一, 大久保暁正, 高橋朋子, 福嶋昭治, 五島邦治(園田学園女子大学)
- 11:10-11:30 4: 知識構築を目指した ICT-based Progressive Curriculum
大島 純(静岡大学)
- 11:30-11:50 5: 早稲田大学 e スクールの実践
- スクールモデルに基づくインターネット大学 -
野島栄一郎, 浅田 匡, 菊地英明, 金 群, 向後千春, 西村昭治, 松居辰則(早稲田大学)
- 11:50-13:20 昼休み
- 13:20-13:40 6: 子どもたちの主体的な学びを引き出す PDA(携帯情報端末)を活用した水族館学習
高田浩二(海の中道海洋生態科学館)
- 13:40-14:00 7: Web 技術の活用による実験レポート添削・採点支援システム
太田 剛(静岡大学)
- 14:00-14:20 8: 「OTC 医薬品販売教育における学習者問題作成型 e-learning 教材」の開発
山本由美子, 山本孝一(浜松学院大学)
- 14:20-14:40 9: 中学校選択理科におけるビデオカメラとパソコンを使った瞬間の現象の観察の実践
丹羽孝良(桐生市立相生中学校)
- 14:40-15:00 休憩
- 15:00-15:20 10: 情報通信技術を活用したリアルタイム双方向遠隔講義の実践
長谷川忍, 但馬陽一, ニツ寺間政友, 安藤敏也, 丹 康雄(北陸先端科学技術大学院大学)
- 15:20-15:40 11: 携帯電話を利用した授業運営支援システムの構築と評価
松村健児((株)読売新聞東京本社), 但馬陽一, ニツ寺間政友, 安藤敏也, 丹康雄(福井大学)
- 15:40-16:00 12: 知的障害養護学校における I T C 活用による遠隔支援の試み
池田利昭(石川県立明和養護学校)
- 16:00-16:20 13: 「新医師臨床研修制度必修化へ対応する ICT を利用した新しい研修支援システムの構築・運用」
坂田信裕, 小西邦生(信州大学)
- 16:20-16:40 14: 「エンジンの動作メカニズムの理解を助けるマルチメディアコンテンツを用いた教育実践」
佐藤智明(神奈川工科大学)
- 16:40-17:00 投票

「ICT を利用した優秀教育実践コンテスト」

入選取組発表会(2次審査会)No.2



2005年3月26日 於 東京理科大学

プログラム

- 13:00-13:10 学会長挨拶
- 13:10-13:30 1: シミュレータを中心としたマルチメディア教材による教育
須田宇宙, 三井田惇郎(千葉工業大学)
- 13:30-13:50 2: eラーニング型ビジネスゲームの実践
田名部元成(横浜国立大学)
- 13:50-14:10 3: 病弱児童の「院内学級」と大学生が作る連携クラス - 生きる力を育む ICT -
西堀ゆり, 山本裕一(北海道大学)
- 14:10-14:30 4: 対面授業におけるLMS(CFIVE)の活用方法に関する報告と評価
寺脇由紀, 関谷貴之, 尾上能之, 山口和紀(東京大学)
- 14:30-14:50 5: ICTの教育実践を通して学んだこと(仮)
荒川 昭(慶応義塾普通部)
- 14:50-15:00 休憩
- 15:00-15:20 6: 専修大学高大連携での教科「情報」教科研修における統合的eラーニングシステムの活用
- 研修経験の共有と研修知識の再利用 -
香山瑞恵(専修大学), 山岸勝広(神奈川県立川崎高校), 田中一晴(専修大学)
- 15:20-15:40 7: 知的LMS「Samurai」の開発と実践
植野真臣(長岡技術科学大学)
- 15:40-16:00 8: 教授活動ゲームを活用した「情報化に対応した教育」の授業設計指導の改善
石井奈津子(埼玉大学), 松田稔樹, 野村泰朗(東京工業大学)
- 16:00-16:20 9: 全国小学生キーボード検定サイト「キーボー島アドベンチャー」
堀田龍也(静岡大学), スズキ教育ソフト(株), 高橋 純(富山大学)
- 16:20-16:40 10: 情報工学基礎教育におけるインターネットを活用した学生参加型双方向授業の試み
鈴木孝幸, 辻 裕之, 宮崎 剛, 村井保之, 松田三知子(神奈川工科大学)
- 16:40-17:00 投票

2004 年度第 6 回研究会のごあんない

テーマ「情報化教育法の実践と評価」

担当 研究会委員会
松永公廣 / 西野和典

日 時：2005 年 3 月 12 日（土） 9:00 ~ 17:00

開催地：摂南大学第 4 情報処理室、第 5 情報処理室

交 通：大阪環状線「京橋」下車、京阪電鉄に乗り換え「寝屋川」下車
バス 3 番乗り場で「太間公園」行きにのり、「摂南大学前」下車
京都方面からは近鉄に乗り、中書島で京阪電鉄に乗り換え
「寝屋川」で下車してください。（<http://www.setsunan.ac.jp/>）

連絡先：〒572-8508 寝屋川市池田中町 1 7 番 8 号

摂南大学 経営情報学部 松永公廣

.072-839-9266 e-mail matunaga@kjo.setsunan.ac.jp

プログラム

9:05~12:00 第 1 セッション

1) 教科教育法の講義で行われる模擬授業の現状と問題提起

富田 学（大阪電気通信大学）、西野和典（九州工業大学）、岩本宗治、渡邊寛二、吉松屋
四郎、横山 宏（大阪電気通信大学）、浅羽修丈（神戸大学大学）、石桁正士（大阪電気通
信大学）

2) 情報科教育法の実践と演習題材

龍昌治（愛知大学）

3) 「商業系、情報系高等学校における、教育実習の実際と課題-普通教科「情報」を中心に」

築 雅之、竹本宜弘（高崎商科大学）

4) 情報科 Web 教材情報データベースの開発

石川 孝、佐藤大樹、村岡直人、宮澤博稀（日本工業大学）

5) 情報科教育法における掲示板を活用した遠隔 TA の実践と作業ツールの開発

鷹岡 亮、草野紘平（山口大学）、渡辺芳雅（誠英高校）、福田隆眞（山口大学）

6) 「教師の情報倫理観に関する実態分析」

田井志保里，阿濱茂樹（金沢大学）

7) 「高等学校情報科における情報の整理と発信の学習に関する研究
- KJ法を利用した自己紹介の作成 - 」

野部緑（久御山高等学校）阿濱茂樹，田井志保里（金沢大学）

12:00～13:00 昼食

13:00～15:05 第2セッション

8) 「資格試験の問題を利用した情報教育の実践と学習評価」

江見圭司（金沢工大学）



9) 構成主義に基づく情報リテラシ授業の実践と評価

永田奈央美，高橋正憲，香山瑞恵，魚田勝臣（専修大学）

10) 学習環境としての没入型仮想現実空間の可能性の探究

藤岡宏紀，香山瑞恵（専修大学）

11) 協調型 e-Learning システム利用時の学習プロセス評価指標の検討

奈良久美子，香山瑞恵（専修大学）

12) 授業評価データに対するマイニングと可視化のための手法の提案

金津奈美，香山瑞恵（専修大学）

15:15～17:00 第3セッション

13) CoMPaS: (Collaborative learning Model integrated Pair programming and SECI)
に基づく学習環境デザインと実践

長友幸子（埼玉県立浦和商業高等学校），横山節雄，宮寺庸造（東京学芸大学）

14) コンピュータ活用の活性化を目指した授業モデルの提案

栢木紀哉（鹿児島県立短期大学），上田千恵（旭川荘厚生専門学院），若林義啓，井原 零
（くらしき作陽大学）

15) 個に対応した e-ラーニングブレンディング授業のための問題自動生成機構の設計

宮地 功（岡山理科大学），姚 華平（岡山理科大学），吉田幸二（倉敷芸術科学大学）

16) 大学における情報教育を対象とした eラーニング環境 PIAGETS の研究

～ パーソナリティ情報に基づいた学習意欲促進方法の探求～

斐品正照（東京国際大学），岡田口ベルト（宮城大学），鈴木克明（岩手県立大学）

9:05~12:00 第4セッション

- 17) 情報科教育法の授業における模擬授業の自己評価と他者評価の比較から
松永公廣, 橋本はる美 (摂南大学)
- 18) 大学教育におけるビジネスゲーム実践の狙いと効果 学習者の意思決定から
木村彰秀, 松永公廣 (摂南大学)
- 19) プログラミング基礎教育における授業方法の評価 Cプログラミング授業の場合
佐野繭美, 橋本はる美 (摂南大学), 高橋参吉 (千里金蘭大学), 松永公廣 (摂南大学)
- 20) 大学におけるエクセル演習の授業設計と実践 教科「情報」の実施をうけて
藤井美知子, 中島信恵 (宇部フロンティア大学短期大学部), 二木映子 (宇部工業高等専門学校), 佐野繭美, 松永公廣 (摂南大学)
- 21) まなびンクサポーター制度を活用した情報教育の実践
石田英美, 井上慎一郎, 赤名真樹, 稲垣友美, 木村彰秀 (摂南大学) 赤井 悟, 谷 進,
上野寛子 (寝屋川市立田井小学校), 松永公廣 (摂南大学)
- 22) ジレンマ教材による情報倫理教育
河俣英美 (大阪大学)

教育システム情報学会30周年記念全国大会のご案内

実行委員長 樋川 和伸 (金沢学院大学)



- 大会テーマ -

教育システム情報学のグランドデザイン ~ 情報社会における知の共有 ~

30周年記念全国大会は古都金沢市で開催します。
多くの皆様のご発表とご参加をお待ちしています。

日時: 2005年8月25日(木)~27日(土)3日間

会場: 石川県金沢市「金沢学院大学キャンパス」

石川県金沢市末町10



教育システム情報学会英文誌 論文募集

(Vol.4, No.1, 2005年12月発行予定)

教育システム情報学会では、2002年度から年1回定期的に英文誌を発行しています。これまでに発行してきました英文誌は、質・量ともに「教育と情報通信技術」に関する世界レベルの内容となりました。このたび、Vol.4に掲載する論文を募集いたします。是非、多くの方々にご投稿いただき、革新的な研究成果、ユニークな実践等を世界に向けて積極的に発信していただきたいと思っております。

下記の要領に沿って、ご投稿いただきますよう、お願いいたします。

論文種別:原著論文(Original Paper)、実践論文(Practical Paper)、ショートノート(Short Note)、実践速報(Report on Practice)

投稿締切:2005年5月16日(投稿は随時受け付けていますが、この期日までにご投稿いただいたものに関しては、Vol.4, No.1への掲載対象となります)

投稿要件

- ・論文は他学会において査読中でないこと、そして、その主要部分が未発表であること。ただし、国際会議、学会の大会、研究会等で口頭発表した内容をまとめたものは投稿することができます。
- ・寄稿者は本会会員である必要はありませんが、本会会員である場合には投稿料に会員の価格が適用されます。寄稿者が2名以上の連名の場合は、そのうち少なくとも1名が会員であれば、投稿料に会員価格が適用されます。

原稿執筆要領:英文誌もしくは下記のURLを参照してください

(http://www.jsise.org/e_journal/CFP-IJ-JSiSE.pdf)

投稿方法

オリジナル原稿をPDF形式にしたものを電子メールに添付してJSiSE英文誌編集事務局(jsise-e@fest.or.jp)へ送付してください。その他のファイル形式や提出方法を希望される場合は、お問い合わせください。

問い合わせ先

JSiSE 英文誌編集事務局

〒116-0012 東京都新宿区南元町23番地

公立共済四谷ビル5F (財)科学技術教育協会内

Tel: 03-5367-9511, Fax: 03-3357-2727

E-mail: jsise-e@fest.or.jp



情報技術標準化フォーラム

「eラーニングのグローバルな動向 - 政策, 技術 そして 応用 -」

eラーニングの世界的な普及が始まってから約10年が経過しました。この間、eラーニングの技術標準化は重要なテーマであり続けてきましたが、年月の経過とともにその役割、内容も変化してきています。

今回、ISO/IEC JTC 1/ SC 36 (学習, 教育, 訓練のための情報技術委員会)の総会が東京で開催されるのを機に、世界各国の専門家により、eラーニングおよびeラーニング技術標準化の国際動向を、技術面のみならず、政策面、そして、実際の応用の観点から幅広くご紹介する情報技術標準化フォーラムを開催いたします。産業界, 学界の関係者の方の幅広いご参加をお待ちしています。

記

- 日時 2005年3月14日(月) 9:30~18:15 (9:00 受付開始)
会場 早稲田大学 国際会議場 井深大記念ホール
(西早稲田キャンパス, 東京都新宿区西早稲田1-6-1)
<http://www.waseda.jp/jp/campus/nishiwaseda.html> (地図中の)
参加費 無料
定員 300名(先着順)
主催 日本工業標準調査会
(社)情報処理学会 情報規格調査会
教育システム情報学会
後援 独立行政法人 メディア教育開発センター
特定非営利活動法人 日本イーラーニングコンソシアム
言語 日本語・英語(日英同時通訳付き)
申込 参加ご希望の方は、下記フォームにご記入の上、E-mailまたはFAXで担当までご連絡ください。定員になり次第〆切とさせていただきますので予めご了承ください。
(社)情報処理学会 情報規格調査会 担当 長澤
〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3号
Tel: 03-3431-2808 Fax: 03-3431-6493
E-mail: standards@itscj.ipsj.or.jp
フォーラムに関する最新情報は下記をごらんください。
<http://www.itscj.ipsj.or.jp/information/SC36-forum20050314.html>

----- 申込みフォーム -----

Subject: 情報技術標準化フォーラム「eラーニングのグローバルな動向」参加申し込み

氏名:

所属: (会社, 団体, 大学, 研究機関名)

Tel:

E-mail:

情報処理学会への加入: (すでに会員/加入しても良い/加入できない)

教育システム情報学会への加入 (すでに会員/加入しても良い/加入できない)

内容の問合せ先

SC 36 専門委員会委員長, NTTレゾナント(株) 仲林 清 E-mail: forum36@itscj.ipsj.or.jp

備考

同日, 同会場で「Asia e-Learning Network報告会」が開催予定です。申込方法等の詳細は, 2月中旬頃決まる予定です。

次ページへつづく

プログラム

- 9:30 - 11:00 **ご挨拶** 岡本敏雄 (教育システム情報学会会長, 電気通信大学教授)
- 10:00 - 11:00 **AEN(Asia e-Learning Network)の活動とe-Learningの役割**
坂元昂 (AEN推進委員会委員長, 独立行政法人メディア教育開発センター名誉教授)
- 11:00 - 12:00 **Global Perspectives on Standards and Standardization**
Jon Mason (education.au limited, Australia)
- 12:00 - 13:30 休憩 (90分)
- 13:30 - 14:00 **日本におけるLOM (Learning Object Metadata) 検索システムによる
教育用コンテンツの流通と活用**
清水康敬 (独立行政法人メディア教育開発センター)
- 14:00 - 14:30 **Metadata Standardization of Educational Information and Its Application in
Korea**
Dae-Joon Hwang (KERIS, Korea)
- 14:30 - 15:00 **Lessons from LOM for e-Learning Standardization**
Norm Friesen (CanCore Initiative, Athabasca University, Canada)
- 15:00 - 15:30 **アジアにおけるeラーニング標準化の取り組み SCORM (Sharable Content
Object Reference Model)の取り組みを中心に**
仲林 清 (NTTレゾナント株式会社ラーニングポータル)
- 15:30 - 16:00 **eラーニングコンテンツとサービスにおける品質保証の考え方、ニーズそしてツール**
平田謙次 (産業能率大学)
- 16:00 - 16:15 休憩15分
- 16:15 - 16:45 **Open Standards for Collaborative e-Learning in France**
Michel Arnaud (パリ第10大学, France)
- 16:45 - 17:15 **協調学習支援技術の標準化の現状と課題**
池田 満 (北陸先端科学技術大学院大学)
- 17:15 - 17:45 **Korea's Visions on Collaborative Learning and Agents in e-Learning
environment**
InSook Lee (Sejong University, Korea)
- 17:45 - 18:15 **商用LMS(Learning Management System)の協調学習機能・データ項目の調査**
田村恭久 (教育システム情報学会CSCL技術委員会, 上智大学)

次世代 e ラーニングの潮流を決める！！

ユネスコ-JSiSE 国際セミナー「知識社会における人材開発」

企業、組織のグローバル化、情報化、知識化が進み、社会で必要とされる知識は複雑となる一方であり、これまでの企業内教育の方法論は大きく変容しつつあります。その意味でも、国際化や複雑な知識社会に対応した新しい人材開発についての対応が急速に必要となりつつあります。

このような中、e-Learning やナレッジ・マネジメントの必要性は増し、企業内教育、高等教育において用いられるようになってきました。これらの状況を受け、今回、国内外で教育工学や先端学習理論の分野で精力的に活躍中の研究者や企業で実際に国際的に人材開発を担当してきた担当者などの講演者に e ラーニングやナレッジ・マネジメントなど先端技術を用いた事例などについての講演をお願いし、新しい時代の人材開発の方法論開発について活発な議論を行います。

メンバーも豪勢で多様です。IEEE Committee of Advanced Learning Technology 編集委員長の Kinshuk 博士、International Journal of Web Based Society 編集委員長 Kommers 博士、International Journal of Web Engineering and Technology 編集委員長 Loana 博士、韓国の e-Learning 第一人者 Lee 博士、国際職業訓練コンソーシアム議長 Lancaster 博士、日本企業からは、たとえば世界で最初にベンチマーキングを発明した 富士ゼロックス研究グループや本田技研、ブラザー、NTT など、また日本を代表する教育工学研究者、e ラーニング研究者が講演、参加します。この機会に奮ってご応募ください。

詳細プログラム <http://kjs.nagaokaut.ac.jp/ueno/unesco/program.html> 参照

日 時：2005年3月17日 10:00 - 17:00 懇親会 17:00 - 19:00
3月18日 9:00 - 16:10

場 所：アルカディア市ヶ谷 <http://www.arcadia-jp.org/>

参加費用：プロシーディング込み 3000円、懇親会 5000円

日 時：2005年 3月17日 10:00 - 17:00 懇親会 17:00 - 19:00
3月18日 9:00 - 16:10

場 所：アルカディア市ヶ谷 <http://www.arcadia-jp.org/>

参加費用：プロシーディング込み 3000円、懇親会 5000円

申 込 先：長岡技術科学大学 永森正仁 nagamori@kjs.nagaokaut.ac.jp

1. 参加者氏名、2. E-メール、住所、電話、3. 懇親会あり/なし
をご記入の上、お申し込みください。

締め切り：3月10日



第7回 eラーニング技術特別委員会シンポジウムのご案内

教育システム情報学会
eラーニング技術特別委員会
東京電機大学エクステンションセンター後援

eラーニングの活用を促進する実践的情報とノウハウの研究を進めているeラーニング技術特別委員会が以下の通りシンポジウムを開催致しますのでお知らせ致します。

今回のテーマは高等教育でeラーニングを進める際、多くの先生方が一度は検討するオープンソースについて議論を進めます。

広い視点からオープンソースを解説する基調講演と実際にオープンソースを使われた先生、若しくは提供している立場の先生方によるシンポジウムで構成致します。

参加ご希望の方は文末にあるフォームでお申し込み下さい。

日時：2005年4月25日(月) 14:00～18:00
場所：東京電機大学11号館17階大会議室 神田キャンパス
http://www.dendai.ac.jp/d2_guide/access_index.html

シンポジウム テーマ

「eラーニングのオープンソース」

PART 1 基調講演 14:10～15:30

「オープンソースの現状と活用ルール」

プレゼンター：経済産業省 情報処理振興課 田代 課長代理

PART 2 シンポジウム 15:40～18:00

「オープンソースの活用体験」

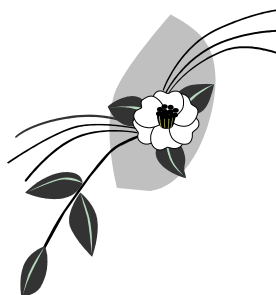
モデレータ：岩手県立大学 鈴木教授

パネリスト：関西大学 冬木正彦教授
九州工業大学 西野和典助教授
慶応大学 福原美三教授

尚ご登壇頂く方のタイトルが変更になる場合があります。

資料代：教育システム情報学会 会員 ￥1,000

申込先： eラーニング技術特別委員会 委員長 小松 秀囀
komatu@hotmail.co.jp



【申し込みフォーマット】

.....

第7回 eラーニング技術特別委員会 シンポジウム申し込み書
(教育システム情報学会 会員)

お名前：

所属：

E-Mail アドレス.:

.....

国際会議の案内

国際会議は、教育システム情報学会の会員のみなさんからの紹介やインターネット上で流れている CFP 情報をもとに編集されています。会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら、下記までご連絡下さい。また、実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますので、そちらのほうもお待ちしております。

新着情報 3 件

ICET 2005: EDUCATION AND TECHNOLOGY

開催日程：2005 年 7 月 4 日-6 日

主催：The International Association of Science and Technology for Development (IASTED)

論文応募締切：2005 年 3 月 15 日

開催地：Calgary, Alberta, Canada

URL：

<http://www.iasted.org/conferences/2005/calgary/icet.htm>

ICALT2005: The 5th IEEE International Conference on Advanced Learning Technologies

開催日程：2005 年 7 月 5 日-7 月 8 日

主催：IEEE Technical Committee on Learning Technology, IEEE Computer Society

論文応募締切：2005 年 2 月 4 日

開催地：Kaohsiung, Taiwan

URL：<http://www.ask.iti.gr/icalt/2005/>

ICWL 2005: The 4th International Conference on Web-based Learning

開催日程：2005 年 7 月 31 日-8 月 3 日

主催：ACM Hong Kong

論文応募締切：2005 年 2 月 1 日

開催地：Hong Kong

URL：<http://www.comp.polyu.edu.hk/icwl2005/>

E-mail：icwl2005@comp.polyu.edu.hk

再掲載情報 1 件

WMTE 2005: Third IEEE International Workshop on Wireless and Mobile Technologies in Education

開催日程：2005 年 11 月 28-30 日

主催：IEEE Technical Committee on Learning Technology

論文応募締切：2005 年 6 月 1 日

開催地：徳島

以下の国際会議の案内をさせていただきます。
奮ってご参加くださいますようお願いいたします。
IASTED-WBE は JSiSE も後援しております。

WBE-2005 conference web site is at:

<http://www.iasted.com/conferences/2005/switzerland/wbe.htm>

CATE-2005 conference web site is at:

<http://www.iasted.com/conferences/2005/aruba/cate.htm>

国際会議案内文責 松田 憲幸 (和歌山大学)
E-mail：matsuda@sys.wakayama-u.ac.jp

新入会員の紹介

新入会員（敬称略）

JSiSE-A0402221	遠藤信一	東京工業大学工学部附属工業高等学校	正会員
JSiSE-A0402222	小坂隆浩	同志社大学	正会員
JSiSE-A0402223	側 由実	電気通信大学大学院	準会員
JSiSE-A0402224	野村正和	有限会社ビットプライズ	正会員
JSiSE-A0402225	田中秀樹	株式会社サンモアテック	正会員
JSiSE-A0402226	町田雅和	富士通サポート&サービス(株)	企業・団体会員からの正会員
JSiSE-A0402227	伊藤淳史	富士通サポート&サービス(株)	企業・団体会員からの正会員
JSiSE-A0402228	小林 士	株式会社オリオンシステムズ	企業・団体会員からの正会員
JSiSE-A0402229	西村博人	修道中学校・修道高等学校	正会員
JSiSE-A0402230	汪 曙東	山口大学	準会員
JSiSE-A0402231	荒谷 猛	大阪経済大学	準会員
JSiSE-A0402232	中村 崇	大阪経済大学	準会員
JSiSE-A0402233	猪俣敦夫	独立行政法人 科学技術振興機構	正会員
JSiSE-A0402234	石田重夫	株式会社富士通経営研究所	正会員
JSiSE-IA040060	沖田敏治	株式会社アイスリーラボ	企業・団体会員
JSiSE-IA040061	平 治彦	株式会社ウェブクラス	企業・団体会員
JSiSE-A0402235	湯浅聖記	日本データパシフィック株式会社	企業・団体会員からの正会員
JSiSE-A0402236	吉田 覚	日本データパシフィック株式会社	企業・団体会員からの正会員
JSiSE-A0402237	中村純子	日本データパシフィック株式会社	正会員
JSiSE-A0402238	小澤伸二	日本データパシフィック株式会社	正会員
JSiSE-A0402239	小柳和喜雄	奈良教育大学	正会員
JSiSE-A0402240	ディリムラット	ティリワルディ 東京電機大学	準会員
JSiSE-A0402241	小泉寿男	東京電機大学	正会員
JSiSE-A0402242	市川 博	産能短期大学	正会員
JSiSE-A0402243	松本豊司	金沢大学	正会員
JSiSE-IA040062	中谷匡男	日本アイビルソフト株式会社	企業・団体会員
JSiSE-A0402244	西尾伸吾	日本アイビルソフト株式会社	企業・団体会員からの正会員
JSiSE-A0402245	中谷匡男	日本アイビルソフト株式会社	企業・団体会員からの正会員
JSiSE-A0402246	治部哲也	関西福祉科学大学	正会員
JSiSE-A0402247	池田 航	兵庫県立高砂南高等学校	正会員
JSiSE-A0402248	姚 華平	岡山理科大学	準会員
JSiSE-A0402249	江原素有	東通産業株式会社	正会員
JSiSE-A0402250	尹 楨勳	広島大学大学院	準会員
JSiSE-A0402251	河野 稔	兵庫大学	正会員
JSiSE-A0402252	葉田善章	独立行政法人 メディア教育開発センター	正会員
JSiSE-A0402253	百田正広	徳山工業高等専門学校	正会員
JSiSE-A0402254	前川泰子	大阪府立看護大学	正会員
JSiSE-A0402255	木村圭一郎	東京都教職員研修センター	正会員
JSiSE-A0402256	沖田敏治	株式会社アイスリーラボ	企業・団体会員からの正会員
JSiSE-A0402257	廣田正俊	株式会社アイスリーラボ	企業・団体会員からの正会員
JSiSE-A0402258	尋木信一	有明工業高等専門学校	正会員
JSiSE-A0402259	高岡詠子	千歳科学技術大学	正会員
JSiSE-A0402260	神谷朋範	株式会社両備システムズ	企業・団体会員からの正会員
JSiSE-IA040063	三宅新二	株式会社両備システムズ	企業・団体会員

(2004年9月23日~2004年12月8日)

新入会員の紹介

新入会員（敬称略）

JSiSE-A0402261	飯田尚紀	産業技術短期大学	正会員
JSiSE-IA040064	佐藤 司	株式会社ネットマン	企業・団体会員
JSiSE-IA040065	小村道昭	株式会社エミットジャパン	企業・団体会員
JSiSE-A0402262	小村道昭	株式会社エミットジャパン	企業・団体会員からの正会員
JSiSE-A0402263	足立 昇	株式会社エミットジャパン	企業・団体会員からの正会員
JSiSE-A0402264	乙守信行	株式会社ジャストシステム	正会員
JSiSE-A0402265	片瀬拓弥	国際コンピュータビジネス専門学校	正会員
JSiSE-A0402266	星山博人	佐賀県立杵島商業高等学校	正会員
JSiSE-A0402267	阪田裕次	神戸大学	準会員
JSiSE-IA040066	前川俊儀	サイバーリンク株式会社	企業・団体会員
JSiSE-A0402268	千葉 玄	産能大学	準会員
JSiSE-A0402269	前川俊儀	サイバーリンク株式会社	企業・団体会員からの正会員
JSiSE-A0402270	秋江幸治	サイバーリンク株式会社	企業・団体会員からの正会員
JSiSE-IA040067	森 和明	富士コンピュータ販売株式会社	企業・団体会員
JSiSE-A0402271	村山芳幸	大阪府寝屋川市立明德小学校	正会員
JSiSE-A0402272	山田成仙	佐賀県立有田工業高等学校	正会員
JSiSE-A0402273	池本 悟	帝京大学大学院	準会員
JSiSE-A0402274	田井志保里	金沢大学大学院	準会員
JSiSE-A0402275	清水賀代	日本女子大学	正会員
JSiSE-IA040068	在間修身	実教出版株式会社	企業・団体会員
JSiSE-A0402276	在間修身	実教出版株式会社	企業・団体会員からの正会員
JSiSE-A0402277	立花 充	実教出版株式会社	企業・団体会員からの正会員

（2004年12月9日～2005年1月31日）

2004 年度第 4 回研究会の報告

テーマ: インターネット新技術による学習環境の展開

担 当 : 研究会委員会
米澤宣義 / 佐々木整 / 樋川和伸

今回の研究会は、本学会「インターネット新技術による学習環境の展開」研究会と情報処理学会「コンピュータと教育」研究会、電子情報通信学会「教育工学」研究会の3研究会が「ICT を利用した新しい学習環境のデザイン」の共通テーマのもとで合同研究会として開催されました。全国各地から参加された大学教員や大学院生、企業研究者ら 76 名があふれるほどの会場の中で朝 9 時から夕方 6 時半まで 19 件 (JSISE は 6 件) の研究発表と熱心な質疑応答が行われ大盛況のうち終了しました。樋川先生には E T の専門委員と JSISE の理事として会場の用意ならびに発表の準備をしていただきましたこと、厚くお礼申し上げます。



- ・開催日 : 2004 年 11 月 20 日
- ・場 所 : 金沢学院大学大学院サテライト教室
(金沢市北國新聞会館)

- 1 . 携帯電話を用いた授業における e-コミュニケーションシステムの開発
樋川和伸・岡田政則・中西一夫 (金沢学院大)

携帯電話やノート PC を活用して講義や演習授業における教員と学生との間のコミュニケーションを高め授業の活性化を図ることを目的とした携帯ユビキタス授業運営支援システム (e-コミュニケーションシステム) を開発し、正規の授業での運用を実施中である。今回の発表では、本開発システムの仕様・機能とその実現のためのメール送受信の仕組みの概要を報告する。

- 2 . Wiki を用いたコミュニケーション向上の試み
山下健司 (日本 IBM)

学生とのコミュニケーション不足に悩む教師は多い。会社での業務の傍ら、私立大学で非常勤講師として講義を担当する筆者には特に強く実感される問題である。そこで、Web ベースのコラボレーション・ツールである Wiki を講義に積極的に活用する試みを行った。Wiki の特徴として、誰もが

対等な立場で文書を自由に編集できるという開放性が挙げられる。この特性が学生たちの活発なコミュニケーションを促すことを期待した。本稿では、この事例について紹介し、評価を行った。

- 3 . 準情報伝達モデルにおけるコミュニケーション効果の計量
岡田政則・樋川和伸 (金沢学院大)

情報伝達の要素として送り手、意図、メッセージ、受け手そしてコミュニケーション効果に着目する。コミュニケーションはその始まりとそれ以降に分類できる。また発言数による分類も可能である。送り手は前提条件により意図をコード化してメッセージを作成する。本研究では送り手と受け手の前提条件が異なる情報伝達のコミュニケーション効果を計る。

- 4 . Computer Science 教育と情報教育
大岩 元 (慶大)

Computer Science の教育は ACM が Curriculum 68 を発表して以来、世界中で情報技術者の教育の中核として行われてきたが、情報技術の急速な展開に伴って肥大化し、科学教育としての位置づけに

ついて深刻な反省が行われている。日本における「情報教育」は、利用者教育として始まったために、最初から科学教育としての側面が極めて弱い。科学研究の歴史をふまえて、「情報教育」の研究がどうあるべきかについて議論する。

5. 情報行為としての応用ソフト操作教育の基底
- (仮称) ソフトウェア・リテラシーの概念からの考察 -
水島賢太郎 (神戸女短大)

応用ソフトウェアの操作教育は、単なる操作チュートリアルにすぎないので大学一般情報教育の対象とならないと考えられてきた。しかし、「(仮称) ソフトウェア・リテラシー」という概念を導入することにより、応用ソフト教育が一般大学情報教育の一分野となり得る可能性を示せた。また、「ソフトウェア・リテラシー」に基づいた応用ソフト教育は、初中等教育における応用ソフト教育に学問的基礎を与えるものの上でも重要と考えられる。

6. デジタルデータ活用ツールとしての ReKOS
川井和彦・高幣俊之・金子委利子・戎崎俊一
(理化学研究所), 高沖英二・町田 聡(メタ・コーポレーション・ジャパン)

デジタルコンテンツ用プラットフォームとして開発を行ってきた ReKOS に、パーソナルコンピュータ上で扱えるファイルに関連づける機能を実装したことにより、デジタルデータを一元的に管理することができるようになった。

7. プロジェクト・研究活動支援のための e-Learning システム (数式表示付き) の構築
江見圭司 (金沢工大)

小規模な組織 (5 から 15 人) で、たとえば部署や研究室でプロジェクトをやりながら、学習も行うことを支援するシステムを構築した。研究室と実験室が離れていても、ウェブカメラで確認しながら実験したり議論したりできる。2 画面を使用する。今回数式表示部分も追加した。

8. 日本語テキストの畳み込み型要約のための単語・文間の関連付け手法の提案

及川 中・伊藤久祥 (岩手県立大大学院)

オンラインヘルプなどの読みにくさを解消し、ユーザに応じた動的なコンテンツの再構成を実現するため、日本語のニュース文を対象とし、ある文に含まれる名詞に対し、その名詞と他の文との関連を見出し、関連づけを生成することにより、日本語テキストの畳み込み型要約を行う手法を提案する。本稿では、被験者を使った実験を行った結果と、それを踏まえた関連付け生成規則を用いたシステムの試作について報告する。

9. バリアフリー化した遠隔講義システム
角 真慈 (北陸先端大学院)

大学の講義形態を変えずに、教室環境における制限を緩和し、講義情報の制限を受けている学生に対して補完を行う必要性を感じた。さらに、障害を持つ学生に対しての支援を行うことも必要と考え、遠隔講義システム LESS を構築した。本研究では講義を受ける学生全般を対象としており、遠隔講義システムによって、バリアフリー化することを前提にシステムを構築した。本稿ではシステム開発の経緯から試用を行った結果、取り除けなかった制度的障壁が問題化されるまでの一連の研究報告を行う。

10. マルチメディアの取り扱いが容易な授業支援ツールの開発

横山淳一 (富士写真光機)

初等中等教育における情報化施策により、小・中・高等学校の授業での IT 装置の活用が進展している。しかし、PC を用いたマルチメディア教材の制作・操作には習熟が必要なため、十分にマルチメディア情報を活用できる状況ではない。本研究では電子化画像を中心とするマルチメディア情報を簡易な操作で授業に適用可能とするため、(1) 高品質カメラ一体型画像編集表示システムの開発、(2) 圧縮画像とバーコードを組み合わせたインデックスコードの適用、及び(3) レーザーポインタ不要の新ポインタ方式を開発し、ストーリー性のあ

る授業を阻害しない授業支援ツールを構築した。本ツールを高等学校の職業課程の授業に試用し、有効性を確認した。

11. IT教育サポートツール"MultiVNC"の開発

北川健司・上原光晶・中山 亮・大橋拓郎・川本良太・千葉大作((株)アルファシステムズ)

ここ数年、組織内教育として e-learning が盛んに導入されるようになってきたが、本格的な普及には至っていない。今回、e-learning の導入を推進するための基礎ツールとして、各生徒のデスクトップ画面を教師側の画面上に並べて表示し、生徒 PC の画面の閲覧及び教師-生徒間や生徒同士による協調作業を可能にするソフトウェア「MultiVNC」の開発を行った。従来からも同様なソフトウェアがいくつか販売されているが、今回はこれをオープンソースとして無償で公開することで、抵抗なく導入されることを目的とする。本論文では、現在開発中の MultiVNC で、実際の教育現場での使用を想定した環境を再現し、その有効性を検証する。

12. 学習の動機付けに適した対話型オンラインリンク集の開発

安江正治・鶴川義弘(宮教大), 眞壁 豊(山形短大), 阿部 勲(石巻工業高校)

能動的な学習を支援するための教育教材をリンク集の形で整備し、かつ投稿欄を各授業の Web ページに設けることで、学習に学生たちとの対話性を持たせることを試みた。その Web ページの運用ツール群の紹介と、学習への有効性を考察する。

13. トラブルを自己解決しようというやる気を出させるユーザサポートデザインの研究

中谷桃子・宮本 勝・米村俊一(NTT サイバーソリューション研究所)

通信機器のトラブルに遭遇しコールセンタに問い合わせてきたユーザを対象にして、「難しい」「分からない」等の負の先入観を払拭させるきっかけや、前向きな態度で機器を扱うきっかけを与える自己解決指向型ユーザサポートデザイン手法を提

案する。具体的には、コールセンタの対応時に単なる問題解決方法だけでなく、システムの仕組みやトラブル対処方略を説明する手法である。本稿では、実験を行い、ユーザのコンピュータに対する不安感や自己効力感に与える影響を、質問紙により分析した。その結果、自己解決指向型ユーザサポートが、「不安の具体化」「汎用的な自己効力感」という側面から、寄与する可能性があることが示唆された。

14. ビジネスゲーム実施時における学習者の意思決定状況

木村彰秀・松永公廣(摂南大学)

ビジネスゲームはこれまでに、いろいろな種類のもが開発されたが、効果的な活用方法、効果に対する評価、より効果をあげる指導方法の確立が課題となっている。筆者らは、ビジネスゲームにおける学習者の意思決定構造を調査するため、継続的な演習をおこない、その結果分析をしてきた。その分析では、ビジネスゲームが経営分野の学習に有効であることを知ることができた。一方で、意思決定構造における調査方法の改良とビジネスゲームをくりかえしおこなう効果について、検討することが課題となった。そこで、筆者らはこれらの課題についての知見を得るために演習をおこなった。

15. 学習者の関心の変容に関するコンセプトマップ分析手法

中澤正江・池田 満(北陸先端科学技術大学院大学)

近年、横断的学問領域が次々と立ち上がってきている。横断的学問領域においては、学習者はさまざまな分野との接点(講義など)を通じ、自身の関心を変容させていくと考えられる。我々は、その変容を明らかにするためのオントロジー工学的手法の確立を目指している。本稿では、学習者の学問的関心をコンセプトマップとして収集・分析する手法の提案と、その実験結果の考察について報告する。

16. About the interest that my college students showed in NGO activities

(本校学生がNGO活動に示した興味について)
Toshikatsu Kanaya (Ishikawa NCT) (金谷利勝 (石川高専))

筆者は一年間学生に英語の教科書を使ってNGO (非政府組織) について教えた。講義の終わりに、筆者が示したすべての教材の中から一つ選び、学生自身の意見を書き、提出するように要求した。そのレポートから、学生の75%がNGOの活動に興味があり、25%が興味を持っていないことがわかった。

17. 一大学院カリキュラムビジョンに対するイメージ解析

北垣郁雄・李東林 (広島大), 山下元 (早大), 佐藤 章 (東洋大), 稲井田次郎 (日大), 但馬文昭 (横浜国大), 中島信之 (富山大), 小田哲久 (愛知工大)

大学院教育の内容は、知財立国としてのわが国の将来を決める主要課題である。実際には、そのカリキュラムの実現は、当該大学内での議論とコンセンサスを必要とする。従来の大学院教育の理念は、高度の専門知を有する専門体の養成を主とすることが多い。しかし、その修了後の長い研究実務では、専門知に加え、研究実務を支援するようないわば支援知が必要とも言われる。本研究がイメージ調査の対象とするのは、そのような専門知と支援知を調和的に教授するような大学院カリキュラムビジョンである。本研究は、教員や学生にイメージ調査を行い、本ビジョンの構築にあたって議論となりそうなキー概念などをデータ解析することを目的とする。数量化理論 類による解析の結果、国際的にみた主体性、大学院の理念と具体的教育内容・方法などのキー概念が抽出されること、などを述べる。

18. 温泉での健康教育の効果の事例対象研究

プログラムに基づいた運動浴教室長期参加者における検討

松原 勇(石川看護大), 鏡森定信(富山医薬大)

週1回45分の温泉運動浴コースを3年以上にわたって出席率70%以上で継続していた70歳以上の女性の群と性別・年齢をマッチさせて、70%以上の出席率に達しなかった群、ならびに温泉運動浴コースを経験していない群を選び検診を行い比較した。検査項目として肥満度(BMI)、血圧、%肺活量、一秒率、握力、10m全力歩行、開眼片足立ち時間、重心動揺(総軌跡長、外周面積、単面軌長)、躯幹屈距離、腳踏み出し距離、踵骨密度を比較したところ、BMI、収縮期血圧、%肺活量、10m全力歩行が、それぞれ独立に統計的に有意であった。以上の結果は、温泉利用の慢性・長期効果として、筋骨格系、時に骨格筋量を維持しつつ、血圧の上昇を抑え、運動能力、特に脚運動能の優位性をもたらすものと推測された。

19. 折線近似による接続の表示

村上 洋平・宮田 昌近 (金沢工大)

簡単な例について詳しく説明した後これを一般化すれば、本質を直感的に理解させ易いと思われる。また、内容を絞ることによって理解できたか否かを評価し易い。ここではリーマン幾何における測地線概念をまず球面で説明し、これを一般化することを例として、簡単な例から始めることの有効性を主張する。



研究報告書のお求めは

研究報告書購入ご希望の方は、(株)メディ・イシュー学術情報部へお問合せください。

TEL (03-5805-1901), FAX (03-5805-1092)

Eメール (ysato@medissue.co.jp) でお申し込みください。1部1,300円(送料共)です。残部切れの際はご容赦ください。

なお、JSiSE 会員で「研究報告」の年間購読(購読料は送料込みで年間4,000円)をご希望の方はJSiSE事務局 TEL (06-4961-6507), Eメール (secretariat@jsise.org) までご連絡ください(年間6回)。この際、ぜひ購読されますようお願いいたします(教育システム情報学会研究会委員会担当/伊藤紘二)。

JSiSE 30周年記念
キャンペーン

会員募集

現在、教育システム情報学会では会員の皆様のお力添えのもとで、わが国を代表する「教育と情報通信技術」に関わる学会になろうとしています。学会の活動をより充実させるには、幅広い研究分野からの会員の参加と予算基盤を安定化させるために会員数の確保が必要となります。今年度の4月からの入会者数は100名を超え8月16日現在の会員数は1311名と急増していますが、1500名の会員数を第一段階の目標としております。

つきましては、下記のような会員募集キャンペーンを実施することになりました。

会員の皆様におかれましても、ぜひ推薦者となっていただき新しい会員の確保に、特別のご協力をお願い申し上げます。

記

正会員・準会員

2005年3月末までにお申しいただくと、2005年の年会費が半額・入会金無料

2005年4月～6月の期間にお申しいただくと、2005年の年会費が3割引・入会金無料

企業・団体会員

2005年3月～6月の期間にお申しいただくと、2005年の年会費が半額・入会金無料

(注)維持会員の名称が企業・団体会員となり、一口につき正会員を2名まで登録できるようになりました。

以上

企 業 員 介 団 体 会 紹

JSiSE 会員は、一般会員・準会員・特殊会員・名誉会員はもとより、企業・団体会員の方々の支えで運営をしています。

2005 年 1 月 31 現在、企業・団体会員様は、23 団体ご入会いただいております、JSiSE 学会全国大会や研究会などで、企業展示と広告で、幅広いご協力をいただいております。

日本データパシフィック株式会社

富士通サポート&サービス株式会社(F s a s) (トレーニング推進部研修部)

日本ユニシス・ラーニング株式会社 (e-Learning 事業推進部)

東芝エンジニアリング株式会社 IT & マルチメディアデザインセンター (略称 IMC)

株式会社オリオンシステムズ

株式会社アンピリカス

徳島県立二十一世紀館

株式会社エヌ・ティ・ティ・エックス

ネットワンシステムズ株式会社

金沢学院大学

コナミ株式会社

株式会社大塚商会

株式会社エフ・シー・マネジメント

富士通幕張システムラボラトリー

株式会社アイスリーラボ

株式会社ウェブクラス

日本アイビルソフト株式会社

株式会社両備システムズ

株式会社ネットマン

株式会社エミットジャパン

サイバーリンク株式会社

富士コンピュータ販売株式会社

実教出版株式会社



S



S

E